

議事録

会議の名称	令和6年度第3回西東京市総合教育会議
開催日時	令和7年2月18日（火）午前10時から午前11時45分まで
開催場所	西東京市役所 田無庁舎4階 第1・2委員会室
出席者	<p>池澤市長、萱野副市長、後藤教育長、米森教育長職務代理者、山田教育委員会委員、服部教育委員会委員、今井教育委員会委員、宍戸教育委員会委員</p> <p>西東京市地域学校協働活動統括推進員 長谷川和子 西東京市立保谷第二小学校校長 三澤亘潤</p> <p>(事務局) 柴原企画部長、佐野企画部参与兼企画政策課長、豊田企画政策課企画政策担当主任、利根川企画政策課企画政策担当主任、村野企画政策課企画政策担当主任、遠藤子育て支援部長、宮崎子ども家庭支援センター長、渡邊文化振興課長、和田協働コミュニティ課長、中澤環境保全課長、早川教育部長、岡本教育部特命担当部長、飯島教育部副参与兼教育企画課長、近藤学務課長、田村教育指導課長、高野統括指導主事、田中教育部副参与兼教育支援課長、大内社会教育課長、齋藤社会教育課社会教育係主任、福所公民館長、大庭図書館長</p> <p>(傍聴人) 0人</p>
議題	<p>1 事業報告 令和6年度の教育に関する重点施策に基づく事務事業について</p> <p>2 協議 令和7年度の教育に関する重点施策について</p> <p>3 懇談 (1) 西東京市の地域学校協働活動について ～コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体とした取組について～ (2) 平和に関する教育の充実について ～心を育て、平和を願う～ (3) 特別支援教育の一層の充実に向けて</p> <p>4 その他</p>
会議資料の名称	<p>資料1 令和6年度の教育に関する重点施策に基づく事務事業</p> <p>資料2 令和7年度の教育に関する重点施策（案）について</p> <p>資料3-1 西東京市の地域学校協働活動について</p> <p>資料3-2 西東京市立けやき小学校 地域学校協働活動</p> <p>資料3-3 けやき応援団通信</p> <p>資料4 「心を育て、平和を願う」</p> <p>資料5 特別支援教育の一層の充実に向けて</p>
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	

○市長：

ただいまから、令和6年度第3回西東京市総合教育会議を開会します。

○市長：

本日の会議は、西東京市総合教育会議会議規則に基づき公開します。傍聴は、西東京市総合教育会議傍聴要領に基づき10席までの傍聴を認めます。会議の議事録は、発言者の発言内容ごとの要点記録とします。御異議ございませんか。

(異議なし)

議題1 事業報告

○市長：

「議題1」、「事業報告」に入ります。

はじめに、「令和6年度の教育に関する重点施策に基づく事務事業について」事務局より説明をお願いします。

(事務局説明)

○米森教育長職務代理者：

本市のヤングケアラーへの取組については充実してきた印象を受けます。相談のチャンネルが増えることで、子どもたちの心理的負担は軽減されると思いますが、家庭の経済面などの物理的な負担の解消について、取組があれば教えていただけますか。

○宮崎子ども家庭支援センター長：

例えば、きょうだいの保育園等への送迎を代わりに行うヘルパーを紹介したり、ヤングケアラーの要因となっている支援を要する方への具体的な支援策をケアマネージャーを通じて提示したりするなど、家庭へのアプローチを行っています。また、具体的な支援につなげるため、ケアマネージャーへの研修等を行っています。

○山田教育委員：

広島平和の旅や、子ども・若者ワークショップの参加者数が少ないように感じますが、どのように評価していますか。

○和田協働コミュニティ課長：

どちらの事業も、事業実施当日だけでなく、後日の成果発表会などを通じて多くの方に参加いただいているほか、市ホームページ等で報告を行うことで広く周知しています。子ども・若者ワークショップについては、市民まつりでブースの設置も行い、約200人の御来場がありました。

○宍戸教育委員：

就学前の子どもの支援の状況や、社会とのつながりに関する情報について、就学時に確実に各学校に届くよう、関係部署との連携を図っていただきたいと思います。

○市長：

次に「議題2」、「協議」に入ります。

「令和7年度の教育に関する重点施策について」事務局より説明をお願いします。

(事務局説明)

○市長：

特に御意見はないようですので、令和7年度の教育に関する重点施策については、次年度第1回目の総合教育会議において事務局案を協議し、決定賜りたいと思います。

○市長：

「議題3」、「懇談」に入ります。

西東京市の地域学校協働活動について、西東京市地域学校協働活動統括推進員 兼 西東京市立けやき小学校地域学校協働活動推進員の長谷川様からお話を伺います。

初めに、事務局から事業概要について説明をお願いします。

(事務局説明)

○市長：

続いて長谷川様をお願いします。

(長谷川統括推進員説明)

○今井教育委員：

けやき小学校の地域学校協働活動は4年目を迎えたということですが、コーディネーターとして、また統括コーディネーターとして苦勞していることや課題があればお聞かせいただけますか。

○長谷川統括推進員：

活動についてはまだ手探りの部分があります。教育課程内での学校教育活動においては、年度当初に先生方とその年度の学年の方針について打合せの時間を持つことや、教科書の内容についても理解を深めておくなど、学校教育課程の内容を知る必要があると感じています。

統括コーディネーターの視点では、活動年数が浅い学校への支援として、積極的に各学校へ出向く必要があると感じています。また、地域学校協働活動を持続可能なものとするためには、1つの学校に複数のコーディネーターを配置できると良いと思っています。

○今井教育委員：

全国的な傾向として、PTA活動の縮小など保護者と学校の関わり方が変容しているように感じますが、地域学校協働活動への保護者の関わりについて御意見があればお聞かせください。

○長谷川統括推進員：

本市においてもPTAや保護者の会などの活動は縮小の方向にあると思います。しかし、読み聞かせや環境ボランティアなどを学校応援団として募集すると、多くの保護者に協力をいただくことができます。PTAや保護者の会などの組織の形が変わりつつある中で、どのように保護者と関わっていくかは難しい課題だと思いますが、保護者が活動を継続していただけると、ゆくゆくは地域の大きな力となるため、保護者との連携は引き続き必要であると感じています。

○服部教育委員：

地域学校協働活動が市域全体で持続されていくことができれば、とても素晴らしいことだと思います。この活動は、人とのつながりや関係性が重要だと思いますが、活動が思うように進まない地域に対し、どのような支援が必要だとお考えですか。

○長谷川統括推進員：

人と人とのつながりについては、地域性や学校によっても形が異なると思います。どの地域でも何らかの形で保護者同士のネットワークやつながりはあり、小さい活動であっても少しずつ参加していただける方が増えていくことが大切だと考えます。

活動をしている中で地域の方のつながりによって、地域包括支援センターの方から連絡をいただいたこともありました。こういった多様な主体とつながりを持つことで、活動を広げることができると

思います。

○服部教育委員：

全ての保護者に学校と関わるチャンスがあるので、「保護者であるからこそできることは何なのか」という問題定義や課題の共有が進めばよいと思います。

○宍戸教育委員：

学校を応援する様々な活動をしている方がたくさんいらっしゃいます。それぞれの活動主体は違うけれども、実際に活動している人が同じである場合もありますが、活動主体の立場が異なることで、関わり方が難しいと感じることがありました。その点からも、地域学校協働活動が組織化され、各団体を結びつけるコーディネーターが配置されたことはとても良いことだと思います。

これまででは、副校長にかなり負担があり、教員が異動してしまうことで地域とのつながりが途切れてしまう懸念もありましたが、学校の負担という視点からもコーディネーターの配置は大きいと感じています。

○市長：

次に、平和に関する教育の充実について、西東京市立保谷第二小学校の三澤校長先生からお話を伺います。

初めに、事務局から事業概要について説明をお願いします。

(事務局説明)

○市長：

続いて三澤校長先生をお願いします。

(三澤校長説明)

○米森教育長職務代理者：

教育文化活動の中で「平和」を取り入れることはとても重要です。単元を超え、様々な角度から、子どもたちの心に残る取組をさせていただいていることはうれしく感じました。素晴らしい子どもたちが育っていくことを楽しみにしています。

○山田教育委員：

平和教育が持続的な取組となるとよいと思います。一方で、国が平和をどのように考え、世界にどのような態度を示しているかなど、将来を担う子どもたちのためには、現実を知ることにもまた必要だと思います。

○三澤校長：

報道と教育現場で異なる視点を持つこともあります。何が正しいか、そしてどのように生きていくかを自ら考え、自らの考えを大事にできるような児童になってほしいと考えています。

○服部教育委員：

御紹介いただいたような小学校での教育について、進学先の中学校とはどのような連携が図られるのでしょうか。

○三澤校長：

保谷第二小学校では、安全教育や花プロジェクトといったコミュニティ・スクールの取組において、柳沢中学校との連携が進んでいます。学習面についても更に連携を図っていきたいと考えています。

○市長：
最後に、特別支援教育の一層の充実に向けて、後藤教育長からお話を伺います。

(教育長説明)

○市長：
特別支援教育の充実に向けては、引き続き、市長部局と教育委員会が連携しながら取り組んでまいりたいと思います。

議題4 その他

○市長：
事務局より連絡事項をお願いします。

(事務局説明：会議資料と会議録の公表、次回開催予定について)

○市長：
最後に、本日の内容を踏まえ、副市長、教育長から意見を求めます。

○副市長：
昨年、西東京市子ども・若者ワイワイプランの策定に向けて、子どもたちの意見を反映するため、子ども会議を開催しました。会議では、子どもたちが身の回りの「ほっとできる場所」と「ほっとできない場所」について話し合いがされ、「知っている人がいる場所はほっとできるけれども、知らない人ばかりの場所ではほっとできない」という意見が多く聞かれました。今回の懇談において、地域学校協働活動の事業効果として、「子どもたちにとって知っている人が増える」ことを挙げていただきましたが、とても重要なことだと思います。地域の中で子どもたちが安全に学校に通い、安心して暮らすために、市長部局も共に取り組んでまいりたいと思います。

先日、保谷第二小学校児童の皆さんに、市財政を学ぶ授業として議場にお越しいただき、様々な提案をいただきました。皆さんの本気度が言葉を通じて伝わりました。今回取り上げていただいた「平和」の取組をはじめ、子どもたちの経験や知識が今後大人になっていくための土台となっていくと思います。

最後に、特別支援教育について、スポーツ大会の様子を挙げていただきました。東京パラリンピックで聞かれたコメントの中で、「障害を見るのではなく、自分自身を見てほしい。」という言葉思い出しました。私自身もこれからこの言葉を大事にしていきたいと思っています。

○教育長：
コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進は、学校を核とした地域づくりから、学校を核としたまちづくりへ繋げ、広げていくための大きなポイントだと考えています。教育委員会として、この取組を大事にしていきたいと思っています。

平和に関する教育については、単に教員から伝達するのではなく、交流を通じて学んでいくことに取り組まれていることがよくわかりました。これは、まさに国の中央教育審議会において進められている多様な教育課程の編成の考え方につながるものだと思います。本市においても、まちづくりにつながる教育について、研究を進めていく必要があると改めて感じました。

○市長：
本日の懇談において取り扱った、「学校を核としたまちづくり」や「平和施策」は、私の政策の柱として取り組んでいます。また、「子どもが『ど真ん中』のまちづくり」にも力を入れており、次世代を担っていく子どもたちを、行政だけではなく、市民、地域、様々な事業者がしっかりと支え、子どもたちが健やかに暮らし、成長できる、そういうまちを築いていくことを目指しています。市内を回っていると、公園で遊んでる子どもたちや、学校帰りの子どもたちなど、たくさん子どもたちとお話をさせていただきました。その中で、子どもたちから「西東京市が大好きです」という声が多く

聞かれました。これは、学校の校長先生をはじめ、先生方や地域の方が、子どもたちのことをしっかりと見ていただいている、その一つ一つの積み重ねだと思っています。

私自身も時間が許す限り現場に赴き、子どもたちと一緒に同じテーブルについて話をしたり、同じ目線で接することを常に心がけています。これからも皆様と一緒に、子どもたちが健やかに暮らしていけるまちづくりにさらに力を入れていきたいと思っておりますので引き続き、お力をいただければと思います。

○市長：

本日の議題はすべて終了となります。

以上で、総合教育会議を閉会します。

<閉会>